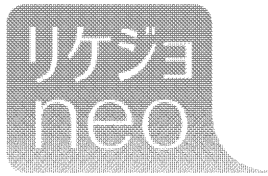


配管設計、対話重ねる



名村造船所

井手 満理奈さん



船舶海洋事業部
設計本部 造船設計部
機電設計課 電送詳細係

（1面から続く）父が船舶設計に携わっていたこともあり、小中学生の頃から造船業界で仕事がしたいと考えていました。実家のパソコンでCADを使う機会はあったのですが、実際の製造現場で使える知識を身に付けるために、久留米工業大学工学部機械システム工学科に進学し、材料ごとの性質や加工法などを学びました。インターンシップ（就業体験）にも1年生のうちから参加し、造船業界で働くイメージを固めていきました。

2019年に入社してから現在まで、電線や配電盤の設計業務に携わっています。大学在学中にできる限りの準備は重ねてきたつもりでしたが、実際の仕事の進め方や細かいルールに戸惑うこともありました。基本的なことですが、メモを取り、分からないことはすぐ聞くようにすることで不安を解消しました。

私が書いた設計図を基に現場の作業員が仕事をします。できるだけ作業負担を低減できる設計を目指しています。現場に出て、見栄えや作業効率についてアドバイスを受けることも多いです。

電線は船内のさまざまな区画にまたがるため、各部署との連携が欠かせません。同じように船全体に張り巡らされる配管設計の部署とも対話を重ねながら、仕事を進めています。社内の風通しが良く、気軽に質問できるのも名村造船所の魅力です。男性社員の育休取得率も上がっており、男女ともに働きやすい職場だと感じています。

プライベートでは社内の女性社員とパン屋を巡り、リフレッシュしています。同業界にいる父からは「10年やって一人前」と激励を受けました。今後さらに経験を積み、より質の高い仕事ができるよう頑張っていきます。

（文・写真＝九州中央・片山亮輔）